

# 5G向け同軸コネクタ―参入

## 三英電気 地域限定市場に照準

【さいたま】三英電気工業（埼玉県川口市、関野真太郎社長、048・255・7196）は、第5世代通信（5G）の基地局アンテナ向け同軸コネクタ―市場に参入する。約3000万円の設備投資を行い、5Gに対応した測定装置を導入した。営業体制の強化などを進め、工場内など地域限定で利用する「ローカル5G」市場を狙う。2023年6月期の売上高で現状比1割増の3億円を目指す。



5G用で割り当てられる周波数28ギガヘルツ帯（ギガは10億）に対応するため、本社工場に43・5ギガヘルツまで測定できる米キーサイト・テクノロジー製のマイクロ波ネットワーク・アナライザ―を導入した。ネットワーク・アナライザ―は電子部品径2・92ミリのコネクタ―の試作品を既に完成している。展示会の装置。あわせてキーエンス製の画像寸法測定装置も導入した。三英電気工業は18ギガまで設計実績を持つ。5Gで使われる外径2・92ミリのコネクタ―の試作品を既に完成している。展示会の装置。あわせてキーエンス製の画像寸法測定装置も導入した。

来的には「OEM比率を6割程度にしたい」（関野社長）と話す。

三英電気工業が導入したマイクロ波ネットワーク・アナライザ―は、基地局向けが約8割を占める。将